

東京都 たこさん 女性

娘のみいちゃんへ

季節が変わって新しい味のママンミールが出る度に過ぎて行く時間を感じます。

小さい時からママンミールが大好きで、「ママのミール？何？」と言っていたのを思い出します。

買って帰るととっても喜んでくれて、「甘くてやさしい！ありがとう！」って笑顔を見せてくれましたね。

思春期になり、あなたが全く口をきかなくなって2年になります。

先日買っていったかわいいくつ下、ゴミ箱に突っこんでありましたね。でも、ママンミールは空袋になっていました。やっぱり甘くてやさしくて、好きなんでしょうね。

また次の季節のが出たら買って帰りますよ。

「ありがとう！」って、また笑顔を見せてほしいです。母より

神奈川県 のんちゃんのパパさん 女性

娘ののんちゃんへ

のんちゃんが2歳になったばかりの春、ママは病気で3週間の入院をしました。

大好きなのんちゃんと一緒にいることができないさみしさから、ママは毎日泣いていました。

そうしてむかえた母の日。のんちゃんはパパと一緒にお見舞いに来てくれました。小さなお手てに1本のカーネーションを握りしめ、ママの好きなナボナの入った紙袋をひきずりながら・・・。

その姿を見て、ママは嬉しいやら、おかしいやら、かわいいやら、申し分けなやら、

いろいろな気もちがいりまじり。また、泣いてしまいましたね。

まだまだ赤ちゃんだと思っていたのんちゃんが、ちょっぴりお姉ちゃんに見えました。

のんちゃん、ありがとう。これからもよろしくね。ママより。

東京都 ななママさん 女性

娘のななちゃんへ

亀屋万年堂といえば、ナボナも大好きだけど、本店にある喫茶室でお抹茶セットを頂くことがとても貴重で素敵なひと時ですよ。

ピアノの習いごとの帰り道、うまくいったときはご褒美。失敗してしまった時は反省会。

お抹茶と季節の練り菓子を口にすると、次も頑張れる気持ちにさせてくれます。

お茶に興味を持ったのも、お店でお抹茶を頂いてからですよ。

これからも店員さんの優しい笑顔と季節感のあるお店と一緒に

お出かけ出来ることを楽しみにしています。

東京都 いちさん 女性

娘のりさちゃんへ

「パパ、ママ！ナボナってなーに？」たまたま、お店の前を通った時の6歳の娘からの質問でした。

「ナボナってパパやママが小さい頃からのフワフワした、とっても美味しいお菓子なのよ！」

私達家族は早速お店に入り、何種類かのナボナを買いました。

自宅に帰り、昔流れていたナボナのコマーシャルの話に娘に聞かせ、本当に懐かしい、

変わらないあの美味しさを堪能しました。ナボナ、アラフィフの私達には最高の贅沢品でした。

懐かしい郷愁にかられて、いつもと違う時を過ごした、その日でした。

娘よ、改めてパパとママに思い出させてくれてありがとう！

これからもナボナは私達家族にとっても永遠のお菓子です。

神奈川県 こぺぺさん 女性

息子へ

小さい頃から食が細いあなた。同じ年頃の子と遊ぶ時、お弁当は小さな小さなおにぎりだけ、

おやつタイムは知らんぷりで遊び続け、もしも無理に食べると具合が悪くなっていました。

やせていて心配な毎日、家族で出かけても、外食では食べられるお店が無くて困っていた日々、

3歳になったある日、いちごが好きだからと駅前限定いちごナボナを買って、

家族でシーバスに乗りに出かけました。

自分で選んだお菓子が楽しみらしく、シーバスに乗るとすぐに、自ら「お菓子たべよう。」

と言い出し、家族3人で海を見ながらナボナを食べました。「おいしいね。楽しいね。」

となんと1個を一人で完食したのです。それがとても嬉しくて嬉しくて。

自分で食べられるものをだんだん選べるようになっていくのだね、

ここまで大きくなってくれて本当にありがとう、と思ったこと、今でも大切な思い出です。

神奈川県 すーさん 女性

娘へ

夢中で3人の子育てをしていました。

仕事から疲れて帰ってへたり込んでいると、テーブルの上にメッセージ付きナボナがありました。

『お疲れさま』のひと言と顔文字にホッとしながらも、いつの間にか社会人になった娘が

気遣ってくれるようになったことへ嬉しくなりました。

ナボナの優しい甘さが家族の優しさに繋がり元気をもらえました。

埼玉県 いっさんさん 男性

息子のいっくんへ

僕が単身赴任のため、いつも一緒にいられない息子のいっくんへ。

せっかく ABC の歌を覚えたのに。すごいでしょ、って自慢したいだろうに。

僕がきみの成長に気づくのは、きみが新しいチャレンジを終えた後ばかり。ごめんね。

でも父もなるべく頑張る。月に二回は新幹線で、東京からきみのいる名古屋へと向かう。

今日もいきなりの仕事が舞い込んできて、最終ギリギリの便に飛び乗る。

その直前、僕の目を引いたのは鮮やかな三色のお菓子、ナボナのロングライフ。

次の日の朝、僕が目目を覚ますと、ナボナをおいしそうに頬張るきみがいた。

父来たの、って言って、普通の顔をしてる。「このパン、すごくおいしい」パンじゃないよ、いっくん。

そんなにあわてず、ゆっくり食べたらいいよ。ロングライフさ。

僕は、きみの人生がそうであってほしいと願う。

さあ、会計帳簿はしばし頭から消し去って。いっくん、今日はどこに行くかい。

神奈川県 善さん 男性

四歳の息子へ

パパと二人でお出かけした日の帰り道。

今日一日とってもおこさんだったからと、パパがひなあられを買ってあげたよね。

「ごほうびだね」と喜ぶあなた。ママも一日頑張ったから、と桜餅も一緒に。

「ママにもごほうびだね」と小さな手に亀屋万年堂の薄紫の袋を提げて歩いた夕暮れ。

帰宅したら、おじいちゃん、おばあちゃんの分、パパ、ママの分とひなあられを嬉しそうに

取り分けてくれたね。家族みんな、あなたの優しさが嬉しかったよ。ありがとう。

そして寝る前に突然、制作をはじめたあなた。

画用紙を一生懸命切ったり貼ったり、完成したのは小さなロボット。

耳は綿棒、手足はストロー。「これは、パパにごほうびだよ。どうぞ」ありがとう。

四歳のあなたとの、この何気ない日々が人生の宝物です。

